

平成27年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業



平成27年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業〔主催＝（公財）日本武道館・（一財）全日本剣道連盟・日本武道協議会、後援＝文部科学省〕が、平成27年7月3日～5日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、研究者20名（内全国5ブロック代表研究者10名）、日本武道館事務局3名により実施された。

■1日目（7月3日）

開講式では、始めに、主催者挨拶として、（一財）全日本剣道連盟 小久保昇治 審議員より、「本研究事業及び全国指導者研修会は、日本武道館の支援を得て平成22年度より毎年実施している。進むべき方向は正しいが、まだまだ課題がある。」と述べ、続いて、（公財）日本武道館 三藤 芳生 理事・事務局長からは「剣道の指導者が高めあい、努力しあう中で、必修化の効果があがることが重要。国語や社会は教科書があるが、武道では、指導者本人が生きた教科書である。何を教え、どう評価するか。必修化本格期の4年目に入るので、授業が充実するよう研究を進めていただきたい」と述べた。

続いて、武道授業の現状として、全国9ブロック代表の研究者より、『（1）勤務校または県の武道授業の現状と課題について（2）全国剣道指導者ブロック研修会に望むこと』のテーマについて、資料を用いて発表が行われた。「女性教員や若い教員を中心に、剣道を選択する学校が増えている」「県内で指導者研修会を実施しているが、参加する先生が限られてきてしまっている」「剣道専門外の教員には、生徒に対し、気剣体の一致や有効打突の説明をすることが難しいようである」「剣道よりも柔道の方が、教育委員会から用具購入等の予算が下りやすい」といった、各ブロックの現場の声が聞かれた。発表後には、質疑応答も行った。

最後に、小久保研究者によるリズム剣道が紹介され、1日目の課程を終了した。リズム剣道に関しては、「既に授業に取り入れている方は？」との質問に対し、多くの研究者の手が上がった。

■2日目（7月4日）

2日目は、剣道授業の段階に応じた実技を中心に研究に入った。はじめに、軽米研究者、山神研究者、山

田研究者による剣道授業における楽しい動機付けの実例が紹介された。軽米研究者からは、剣道や竹刀の歴史に触れたオリエンテーションの説明がされ、山神研究者からは、ジャンケンゲーム等の体ほぐし運動、山田研究者からは、新聞試し切り、ボール打ち等の竹刀を使った導入体験が紹介された。いずれも、研究者同士で、楽しみながら行われ、各ブロック代表の研究者からも、実際に所属校で行っている体ほぐし運動が紹介された。山田研究者は、「球技等の種目は、小学校でも授業を行っているので、中学校においても実技に入りやすいが、剣道は中学校で初めて竹刀を持つ生徒が大多数を占める。ボールを使った動機づけなどから授業に入れば、剣道に対する抵抗感が少なく、面打ちなどの実技練習に入れる。」と、遊び体験の利点が説明された。



多目的ボールを利用したボール打ち

■3 日目 (7 月 5 日)

百鬼研究者が、平成 25・26 年に実施した文部科学省委託事業「武道等指導推進事業」の成果報告を、報告書を資料に行った。武道等指導推進事業の一角である授業協力者養成講習会の参加者に対して行ったアンケートの集計結果では、「生徒が大きな声を出せるようになった」「学校生活全体において、礼儀正しくなった」など剣道授業を実施した成果が指摘された。また、9 割以上の保健体育教員または学校管理職が、授業協力者の存在を肯定的に捉えていることも発表された。

続いて、小久保研究者より、平成 25 年 3 月 13 日付で文部科学省が通知した「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について」の資料を基に、

体罰・暴力によらない剣道指導の在り方について、講義を行った。剣道における体罰、許されない指導例（防具で守られていない部位を故意に打突する等）も発表した。「暴力と、鍛える指導は、紙一重である。暴力の事案が出た場合、校長がいち早く初期対応しなければならない」と対処についても説明があった。

最後に藤田研究者による、剣道授業における評価方法の発表、続いて研究協議として、各研究者から研究事業全体の感想が述べられた後、閉講式を行い、研究事業の全日程を終了した。

◇研究者

- 小久保昇治（全日本剣道連盟 審議員
全日本学校剣道連盟 副会長）
網代 忠宏（全日本剣道連盟 常任理事
全日本学校剣道連盟 常務理事）
百鬼 史訓（全日本剣道連盟
普及委員会 学校教育部会長）
佐藤 義則（全日本学校剣道連盟 常務理事）
花澤 博夫（私立東大谷高等学校 非常勤講師）
軽米 満世（袖ヶ浦総合教育センター教育研究指導員）
有田 祐二（筑波大学准教授）
山神 眞一（香川大学教授・教育学部長）
藤田 弘美（福岡県立育徳館中学校 教頭）
山田 博子（栃木県教育委員会スポーツ振興課
競技スポーツ課指導主事）
相馬 大治（岩沼市立岩沼西中学校 教諭）
織本 建作（木更津市立岩根中学校 教諭）
根岸 敦子（沼田市立沼田南中学校 教諭）
近藤 高士（福井市立藤島中学校 教諭）
田川 敏和（松阪市中部中学校 教諭）
井上 聡（加東市立社中学校 教諭）
高橋 秀昌（広島市立落合中学校 教諭）
松本 真治（那賀町立鷺敷中学校 教諭）
疋田新一郎（大分市立原川中学校 教諭）
井上 淳一（宇城市立三角中学校 教諭）
- ◇日本武道館事務局
吉川 英夫 青木 元樹 今寺 直人
（順不同・敬称略）